

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第1号

令和3年7月7日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 蓮實 聡太

【提案日時】

6月16日(水)

提案 小田島 学先生(別所小)

【会場】

横浜市立平沼小学校

司会 栗田 一輝先生(山下みどり台小)

記録 蓮實 聡太先生(岡津小)

『単元名』 わたしたちのくらしと政治 ～上大岡駅のバリアフリーから学ぶ～

『授業者、提案者より』

単元を見通す学習問題

高齢者や障がいのある方がよりよく生活できるようにするために、だれがどうやって決めているのだろう。

本気の学習問題

平成18年からバリアフリー基本構想が進み始めているのに、なんで2台目のエレベーターを設置したのだろう。

視点① 子どもの予想と見通しを大切に単元づくり

「単元を見通す学習問題」が「これまでに学習したこと」を基に生まれてくることについて

○成果

- ・前単元とのつながりを意識することで「単元を見通す学習問題」が生まれることにつながった
- ・既習経験を予想の根拠として学習計画を立てることができた。

●課題

- ・「単元を見通す学習問題」が常に子どもたちの中で意識づけられていなかった。
- ・「学習内容をいかす」という考えは、教師の発問からでないと思われにくい。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

子どもたちにとって「身近な材」が子どもたちの「本気」を高めていること

○成果

- ・上大岡駅を調査することを通して、バリアフリー設備への関心を高めたりその工夫に気付いたりすることができた。
- ・高齢者や障がいのある方の立場でバリアフリーを見ることができた。
- ・具体的な事実から、国民生活における政治の働きについて考えるという「本時目標の具体化」につなげることができた。

「子どものみとり」をしっかりと行うことが、子どもたちの追究意欲を高めていること

●課題

- ・「本気の学習問題」が生まれるために必要な「資料の精選」

何を考えさせたらいいか どうしたら本時目標を達成させることができたか→ 子どものみとりが必要

・『協議内容』

- ・今回は単元を見通す学習問題を設定後見学をした。見学をしてから単元の流れでも子どもたちは見通しをもてたのではないかな。
- ・8年もかかって → まだできていない
- ・1台目は駅が出来たときにあった
- ・ふり返り→同じ悩み、いいアイデアがほしい。
- ・発問→課題設定→次の課題は？ なぜ だれが 表面的
- ・地域の人がどんな駅にしようとしているのかな→8年もかけている人々の願い
- ・国民の声で政治が動く。
- ・子どもたちの捉えが違う。
- ・利用する人 →可視化するとまとめやすくなる。
- ・国民 選挙→実感がない難しい 身近な上大岡駅は学習に有効であった。
- ・授業の雰囲気よかった
- ・子どもたちが動ける 調査できることがよかった (コロナ禍でありながら)
- ・質問 予算のあつかい → 金額は扱ってない 市会が承認したことを扱った
- ・8年かかったのは反対意見で長引いているわけではなく、どこにつくるかに時間がかかったようだ
- ・地図を使う有効的であった。 → 上大岡 → エレベーター → 見通す学習問題

<講師の先生より>

菊名小学校 校長 野間 義晴 先生

- ・政治学習 自分たちと関わりのある身近な材を扱うことで子どもの追究意欲(自分事)につながる。
- ・対話を通して保護者、地域、役所 自分の考えをもつ
- ・政治が国民生活にどう役割を果たしているかもう一度考える。
- ・エレベーターを通して税金の使われ方、住民の思い役所の思い・駅の関係をどう折り合いをつけたのか。

川和東小学校 校長 高島 聡 先生

- ・5月の時期だが発言、雰囲気積み重ねが生きている。よいモデルとなっている。
- ・子どものどんな資質能力を育てたいか明確にする必要がある。
- ・内容が難しい場合の手立てを考える必要がある。
- ・本気の学習問題のところで、「なんで2台目？」 「なんで8年かかったのか」の順番が逆または、同じ内容だったのではないかな。どんな意味があるのか
- ・3台目の意味を知ることで事象を追究できる。

文責 益満 順也 (三ツ沢小学校)